

読 響

Yomikyo
Nippon
Symphony
Orchestra

響

チカシブ ルラ フランの チャイコフスキイ

華麗なサウンドと切れ味鋭いリズム!

チャイコフスキイ：幻想序曲「テンペスト」作品18

TCHAIKOVSKY: Fantasy-Overture "The Tempest", op. 18

チャイコフスキイ：ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 作品33

TCHAIKOVSKY: Variations on a Rococo Theme in A major, op. 33

チャイコフスキイ：交響曲 第4番 へ短調 作品36

TCHAIKOVSKY: Symphony No. 4 in F minor, op. 36

いよいよ9年間の常任時代の集大成
愛に満ちたタクトで聴衆を魅了する名匠

指揮=シルヴァン・
カンブルラン

(読響常任指揮者)
Conductor = SYLVAIN CAMBRELING

読売日本交響楽団 第210回 土曜マチネーシリーズ
Saturday Matinée Series No. 210

2018年 9月 15 日(土) 14 時開演

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋)

Saturday, 15th September 2018 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000 **SOLD OUT**

読売日本交響楽団 第210回 日曜マチネーシリーズ
Sunday Matinée Series, No. 210

2018年 9月 16 日(日) 14 時開演

東京芸術劇場 コンサートホール (池袋)

Sunday, 16th September 2018, 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390

<https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

チャイコフスキイ国際コンクール優勝
「10年に一人の逸材」と注目を浴びる新星

チェロ=

アンドレイ・
イオニーツァ

Cello = ANDREI IONITA

Peter C. Theis

色彩感に満ちたドラマティックな響き! 名匠カンブルランのチャイコフスキー

音楽評論家 長谷川京介



哀愁漂う美しいメロディー、ドラマティックな構成、色彩豊かな響き、郷愁を誘うロシア民謡の引用など、チャイコフスキーの音楽は聴く人を惹きつけて止まない。今回演奏される「交響曲第4番」は、こうした魅力が全て含まれている。チャイコフスキーが「これまでの中で最良の作品」と自信を示した傑作であり、名曲と言える。

聴きどころは、第1楽章冒頭のホルンとファゴットの力強いファンファーレ。最後の楽章にも出る楽曲全体を貫くテーマであり、「運命の動機」とも呼ばれる。第2楽章のオーボエの哀感を帯びたソロの美しさは傑出している。第3楽章の弦によるピッチカートもユニーク。第4楽章は絢爛豪華で、熱狂的に盛り上がりしていく最後は興奮の嵐を巻き起こす。これほど盛り上がる交響曲は他にないと言っても過言ではないだろう。

前半に演奏される2曲もチャイコフスキーの旋律美や劇的な音楽を味わうにはうってつけだ。シェイクスピア作品に基づく「幻想序曲《テンペスト》」は、海や嵐の激しい描写とともに、チェロが奏でる美しい旋律が愛の物語を描き出す。

「ロココ風の主題による変奏曲」はチャイコフスキーがチェロ奏者フィッセンハーゲンのために書いた作品。フィッセンハーゲンは変奏曲の順番を変更し、一部を変更してしまったが、結果的にその版の評判が良く、チャイコフスキーは渋々認めたとも言われている。叙情的な序奏に続くチェロの優美な主題と、変化に富んだ変奏が魅力。

カンブルランの色彩感に満ちた、ドラマティックかつ繊細な指揮は、チャイコフスキーの魅力を最大限に引き出してくれることだろう。チェロのアンドレイ・イオニツァは2015年のチャイコフスキー国際コンクール・チェロ部門の優勝者であり、「ロココ風の主題による変奏曲」は最も得意とする曲。カンブルランは昨年9月ハンブルク交響楽団の演奏会でイオニツァと共に演じ、その才能を絶賛している。信頼を結んだ二人の息の合った演奏が楽しみだ。

指揮=シルヴァン・カンブルラン

Conductor=SYLVAIN CAMBRELING

(読響常任指揮者)

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデンバーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任し、18年7月までシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督の任にある。クラングフォーラム・ウィーンの首席客演指揮者を務めるほか、18年秋にはハンブルク響の首席指揮者に就任する。これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィルなど世界の一流楽団を指揮。17年11月には読響とメシアンの歌劇「アッシジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を披露し、「音楽の友」誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位に選出されるなど絶賛された。

©読響



©Thomas von Wirth

チェロ=アンドレイ・イオニツァ

Cello = ANDREI IONITĂ

2015年チャイコフスキー国際コンクールで優勝した新星チェリスト。タイムズ紙で「10年に一人の逸材、最もエキサイティングなチェリストの一人」と絶賛され、欧州各地で活躍している。1994年ルーマニア生まれ。ハチャトゥリアン国際コンクールやポッパー国際コンクールで優勝、ミュンヘン国際コンクールで第2位など多数の受賞歴を誇る。これまでにカンブルラン、ゲルギエフ、ブレトニヨフらの指揮でミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ウィーン放送響、マリイン斯基歌劇場管、サンクトペテルブルク・フィル、チェコ・フィルなど世界各地の楽団と共に演奏。ザルツブルク音楽祭やマルボロ音楽祭に出演するほか、カーネギー・ホール、ウィグモア・ホールなど著名なホールでのリサイタルも好評を博している。

読売日本交響楽団 第210回 土曜マチネーシリーズ

2018年 9月 15日 (土) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥3,000 OUT

読売日本交響楽団 第210回 日曜マチネーシリーズ

2018年 9月 16日 (日) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

東京芸術劇場 コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111
・JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分 (*駅地下通路2b出口と直結しています)

託児サービス 東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。わらべうた0120-415-306(予約受付: 平日9時~17時)

■ 学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■ 都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■ 未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296